

低風疹抗体価産褥婦の
低い産後ワクチン接種状況について
- 母子手帳で
妊娠中抗体価もチェックしよう -

わたなべ小児科医院
渡部礼二



昭和39-40年に本土復帰前の沖縄で風疹の流行によりCRSが408人発症。

「遙かなる甲子園」
そのCRS児が北城ろう学校で野球部を創設。昭和56~58年にその野球部が高野連に加盟を認可されるまでのノンフィクション物語。

先天性風疹症候群

- ・妊娠初期に風疹の罹患により、胎児に感染し先天性風疹症候群(CRS)の児が出生
- ・CRSの発生頻度(顕性感染)
 - 妊娠1ヶ月： $\geq 50\%$
 - 2ヶ月：35%
 - 3ヶ月：18%
 - 4ヶ月：8%

風疹：成人で15%程度不顕性感染⇒CRSの可能性

先天性風疹症候群

先天性心疾患（動脈管開存症、肺動脈狹窄）

白內障

難聽

網膜症

肝脾腫

血小板減少

糖尿病

發育遲滯精神發育遲滯

小眼球

風疹



潜伏期間：14～21日 三主徴：発熱、発疹、リンパ節腫脹
合併症：脳炎、血小板減少性紫斑病、関節痛
鑑別診断：溶連菌感染症、伝染性紅斑、修飾麻疹、
エンテロウイルス感染症、伝染性単核球症、薬疹

風疹ワクチン

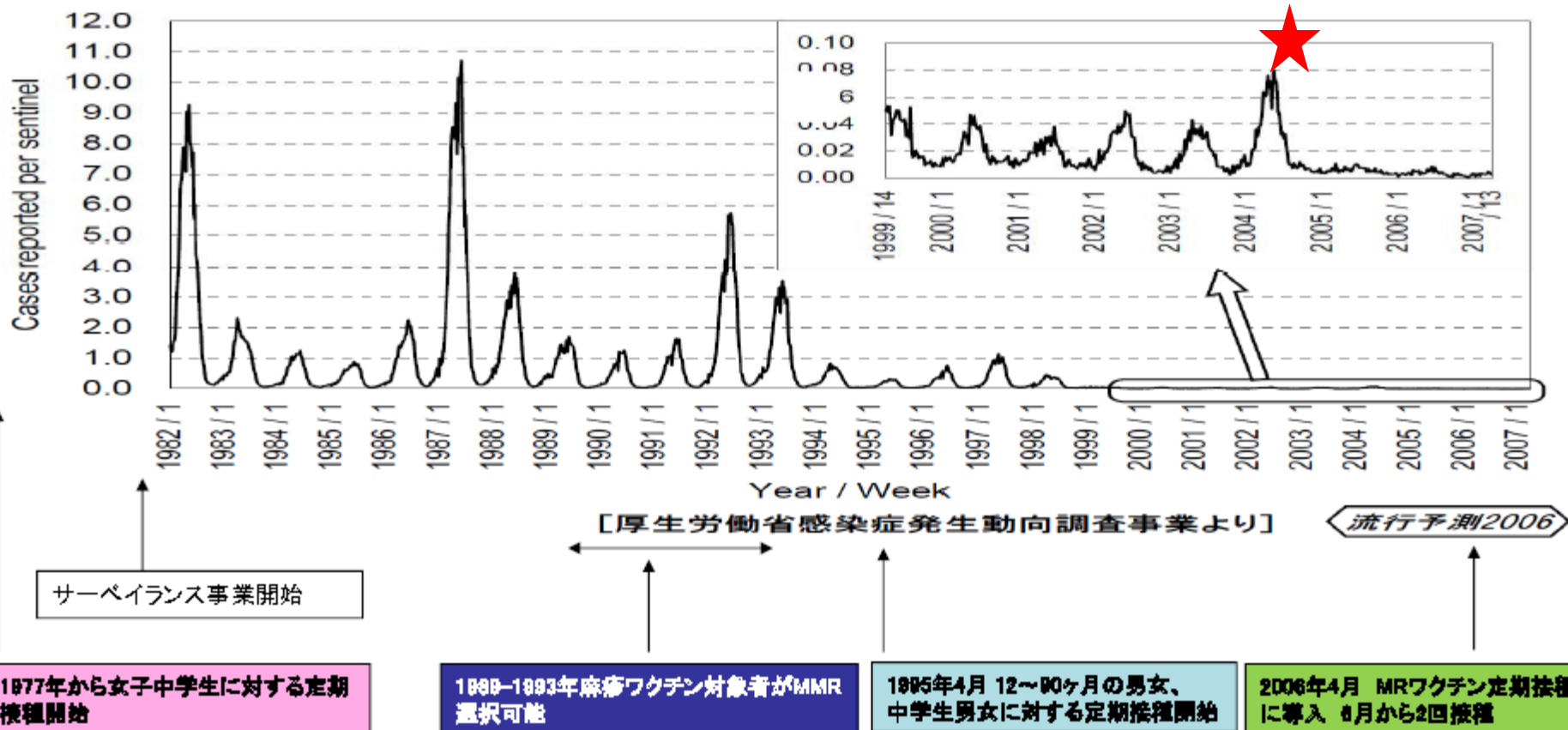
第一義の目的はCRS発生予防！

個人防衛：女性は妊娠する前に抗体を高くし感染防御

社会防衛；接種率を上げることにより風疹の流行抑制し、妊婦のウイルス曝露機会を抑制

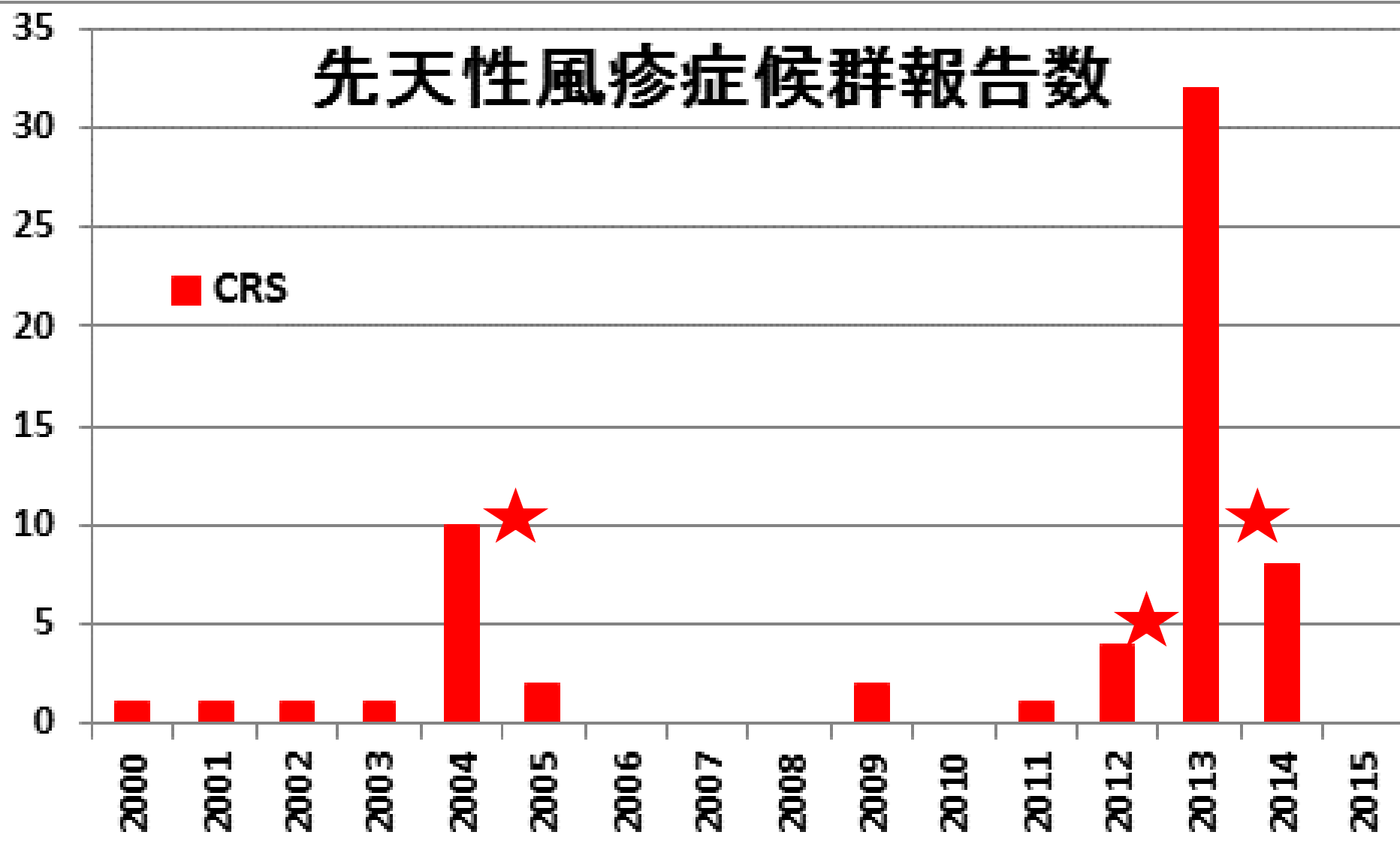
小児科定点あたり風疹患者報告数の推移

—感染症発生動向調査(1982-2007年第13週)—



先天性風疹症候群報告數

■ CRS



風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 平成16年8月

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨
2. 定期予防接種勧奨の強化
3. 定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される者への接種強化
 - 1) 10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望あるいはその可能性の高い女性
 - 2) 産褥早期の女性

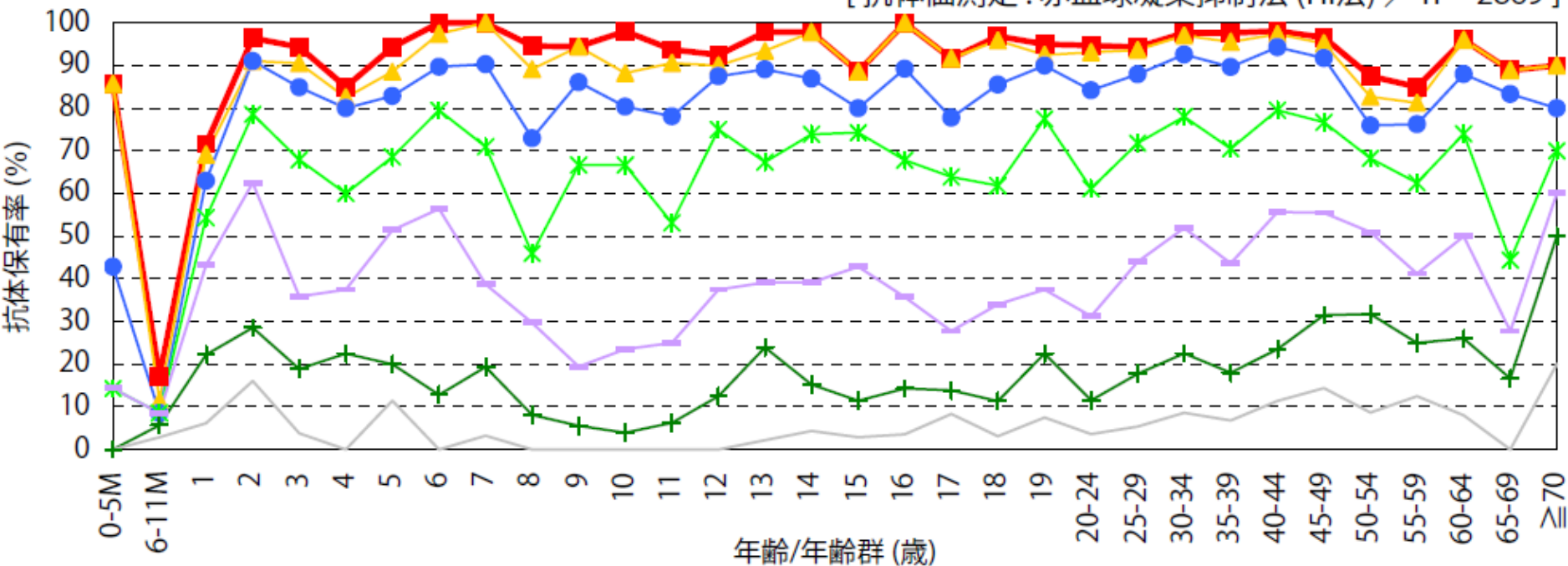
妊娠中の風疹HI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の女性は、出産後早期(産褥1週間以内の入院中、もしくは1か月健診時に行うことが推奨される)。に接種を受けることが強く勧められる。(その際の接種記録は、母子手帳の児の欄には記録せず、妊娠経過の欄或いは産後早期の経過欄に母親への接種であることを明記する。または、予防接種証明書を発行し、本人の記録として残す。)

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2012年^{※1} ～ 2012年度感染症流行予測調査より～

※1 主に2012年7～9月に採取された血清の測定結果(2013年3月現在暫定値)

女性

[抗体価測定: 赤血球凝集抑制法 (HI法) / n = 2869]



※ 0-5か月群は10名未満の結果

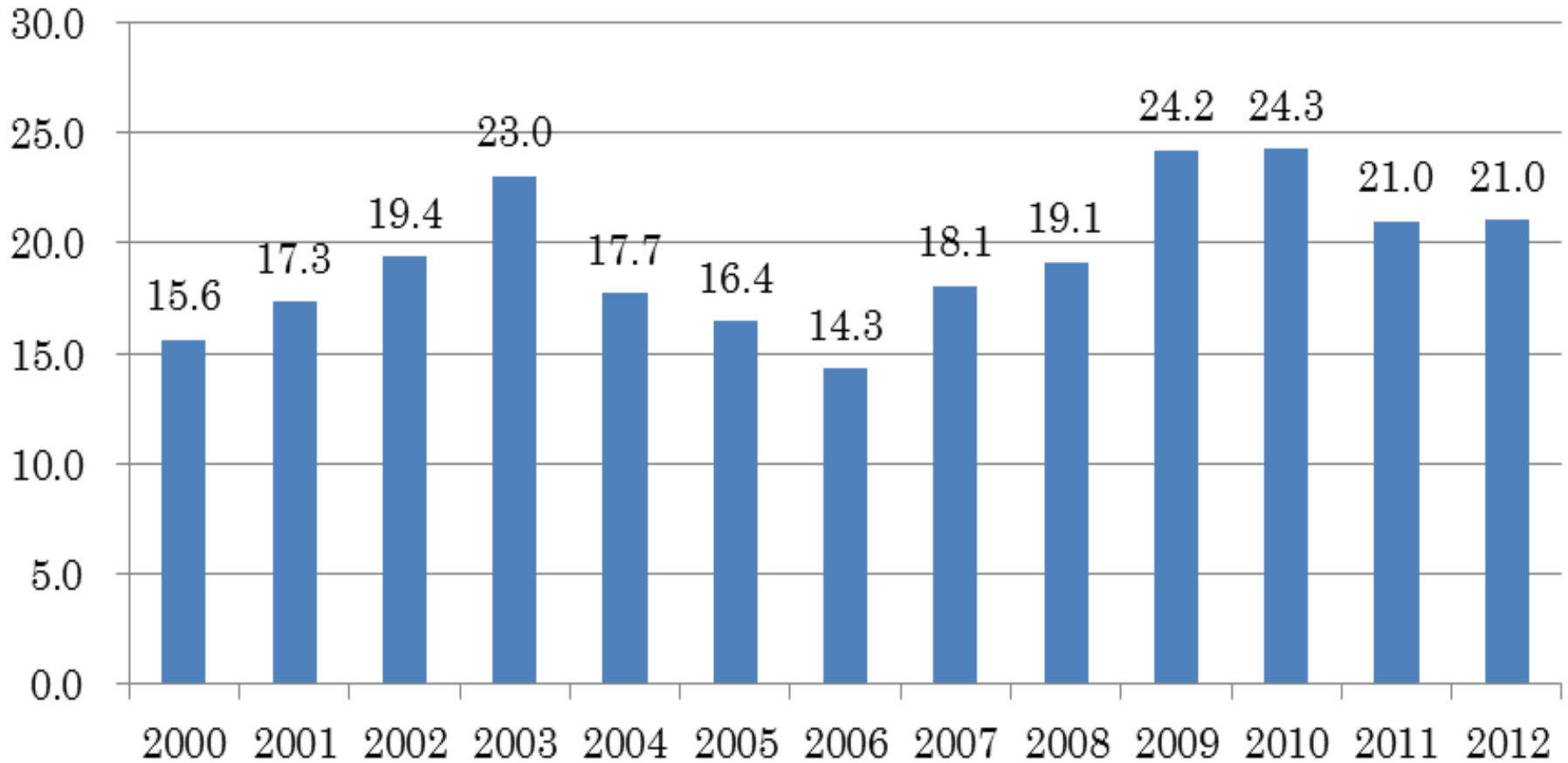
抗体価 ■ ≥1:8 ▲ ≥1:16 ● ≥1:32 ✱ ≥1:64 + ≥1:128 + ≥1:512

【2012年度風疹感受性調査実施都道府県】

宮城県, 山形県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 新潟県, 長野県, 愛知県, 三重県, 京都府, 山口県, 高知県, 福岡県

流行予測2012

ワクチン対象率



HI抗体価16倍以下妊婦の比率

横浜市大総合周産期母子医療センター（奥田美加，平原史樹他）

乳幼児健診(6ヶ月・1歳)・予防接種(1歳未満)での調査

N=222

2015.1~12

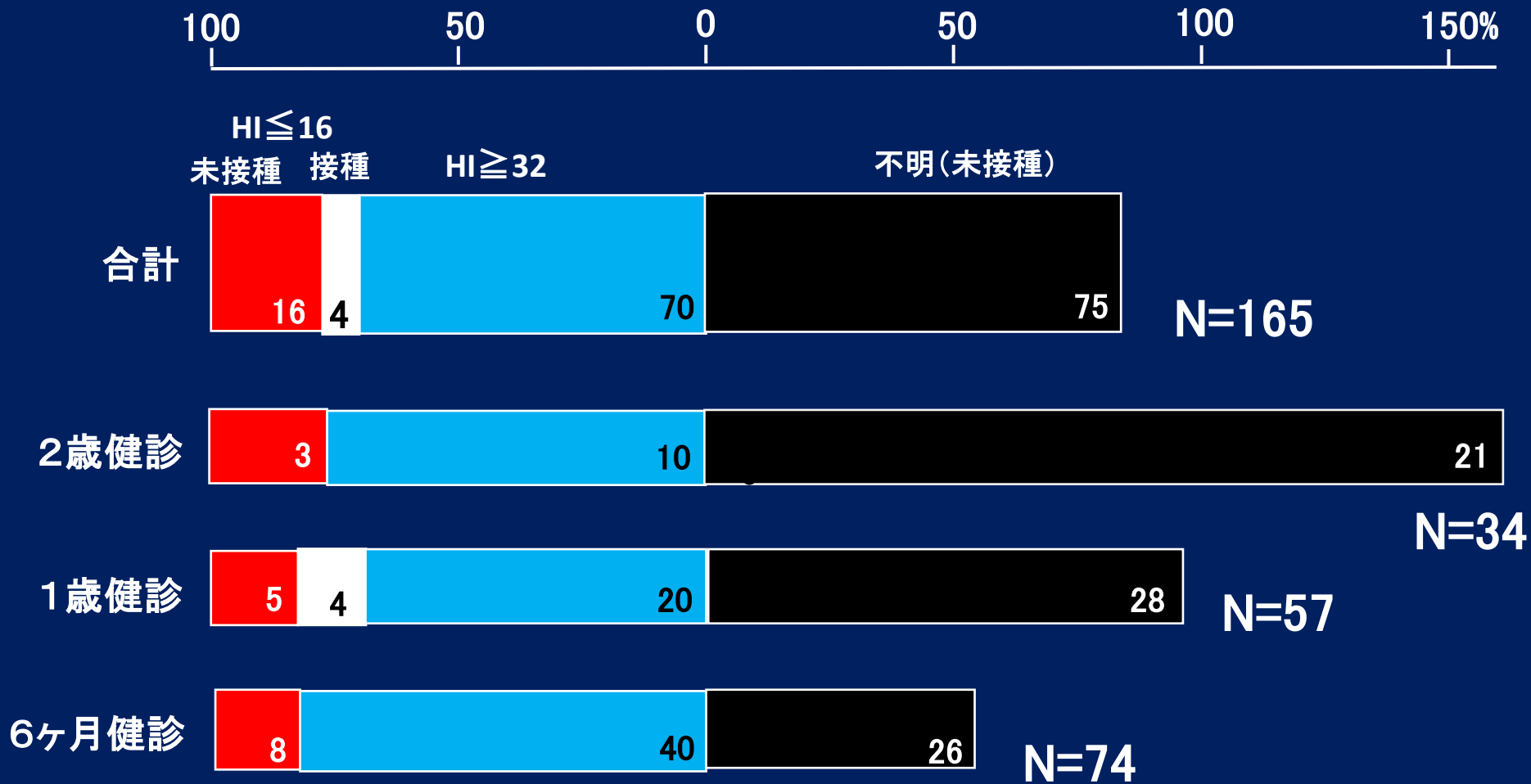


≥ 2m < 2m (産科)

- 未検査!
- 1名 : 4mに接種
 - 3名 : 前子妊娠中 HI ≥ 32
 - 2名 : 前子分娩後接種
 - 4名 : 妊娠前接種

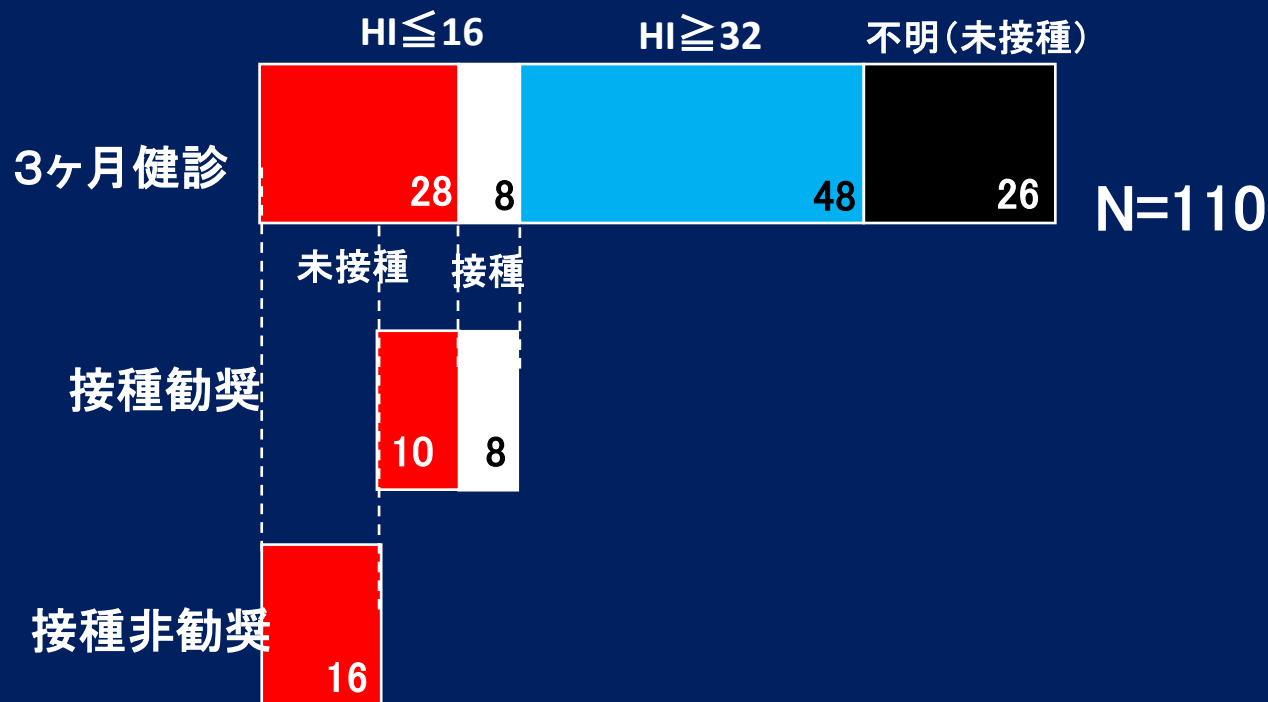
個別乳幼児健診(6ヶ月・1歳・2歳)での調査 (当院)

2014. 1~6



乳幼児集団健診(3ヶ月)での調査 (市内福祉健康C)

2014. 5

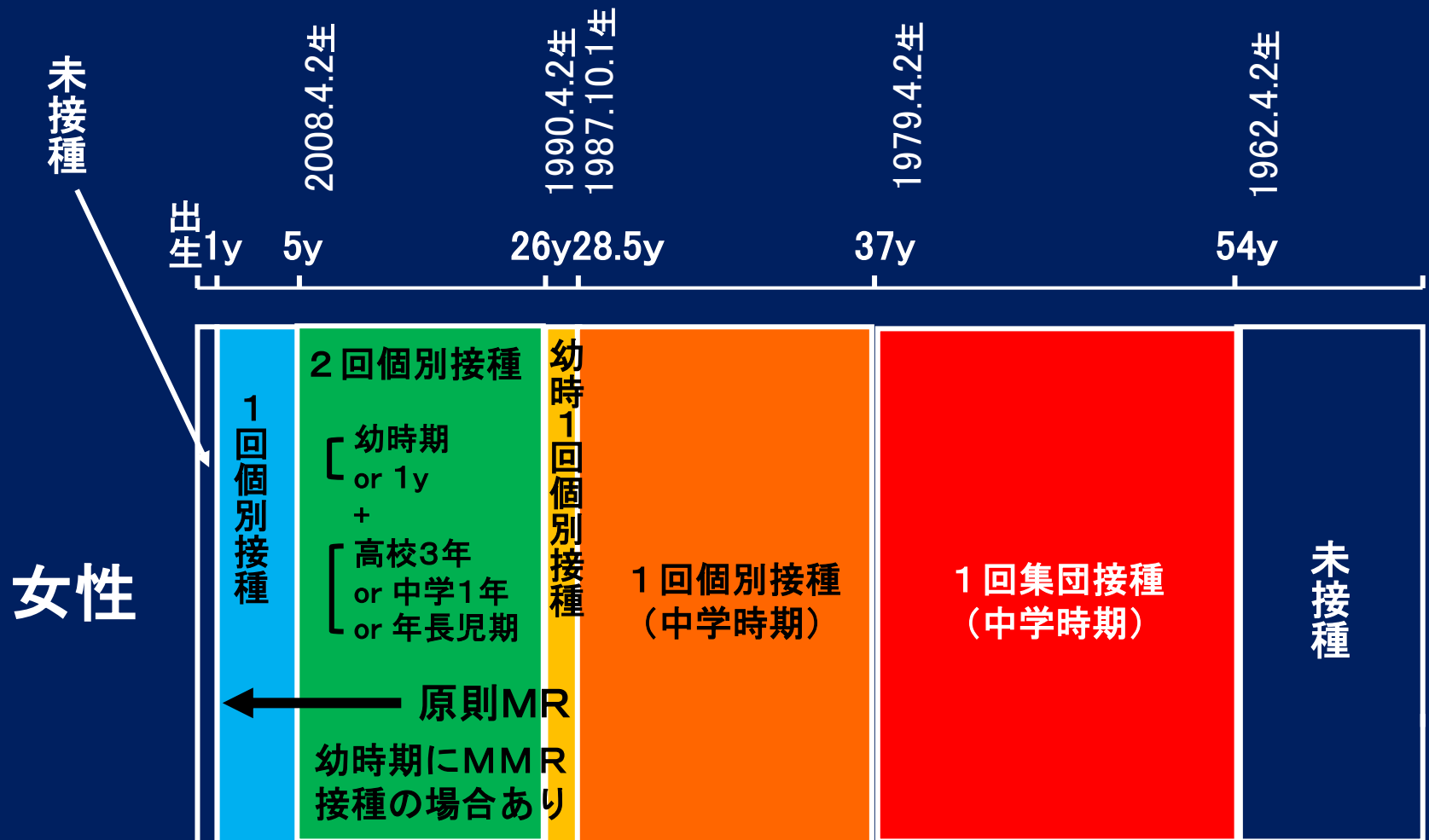


産科では

- 低抗体価の産褥婦にガイドライン通り
ワクチン接種・・・一部
- 抗体検査未実施
- 希望者のみ抗体検査
- 2子以降検査未実施
- 低抗体価も接種勧奨せず
- 低抗体価を従来の $HI \leq \times 8$ で判断
- 授乳中は接種せず
- ワクチンの在庫(一) ..などなど色々

定期接種としての風疹ワクチン接種状況

2016.4.1現在の年齢



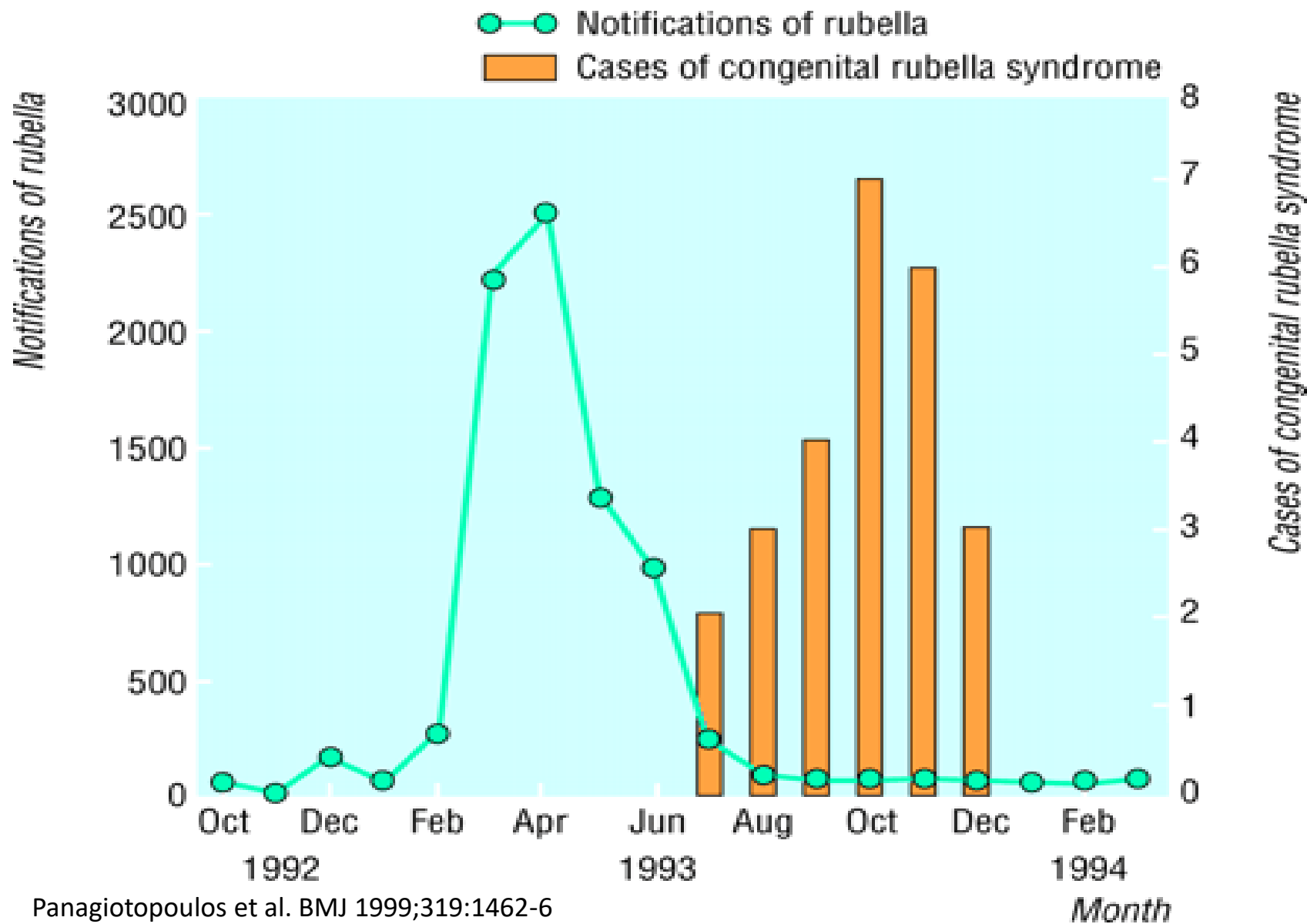
風疹ワクチン

第一義の目的はCRS発生予防！

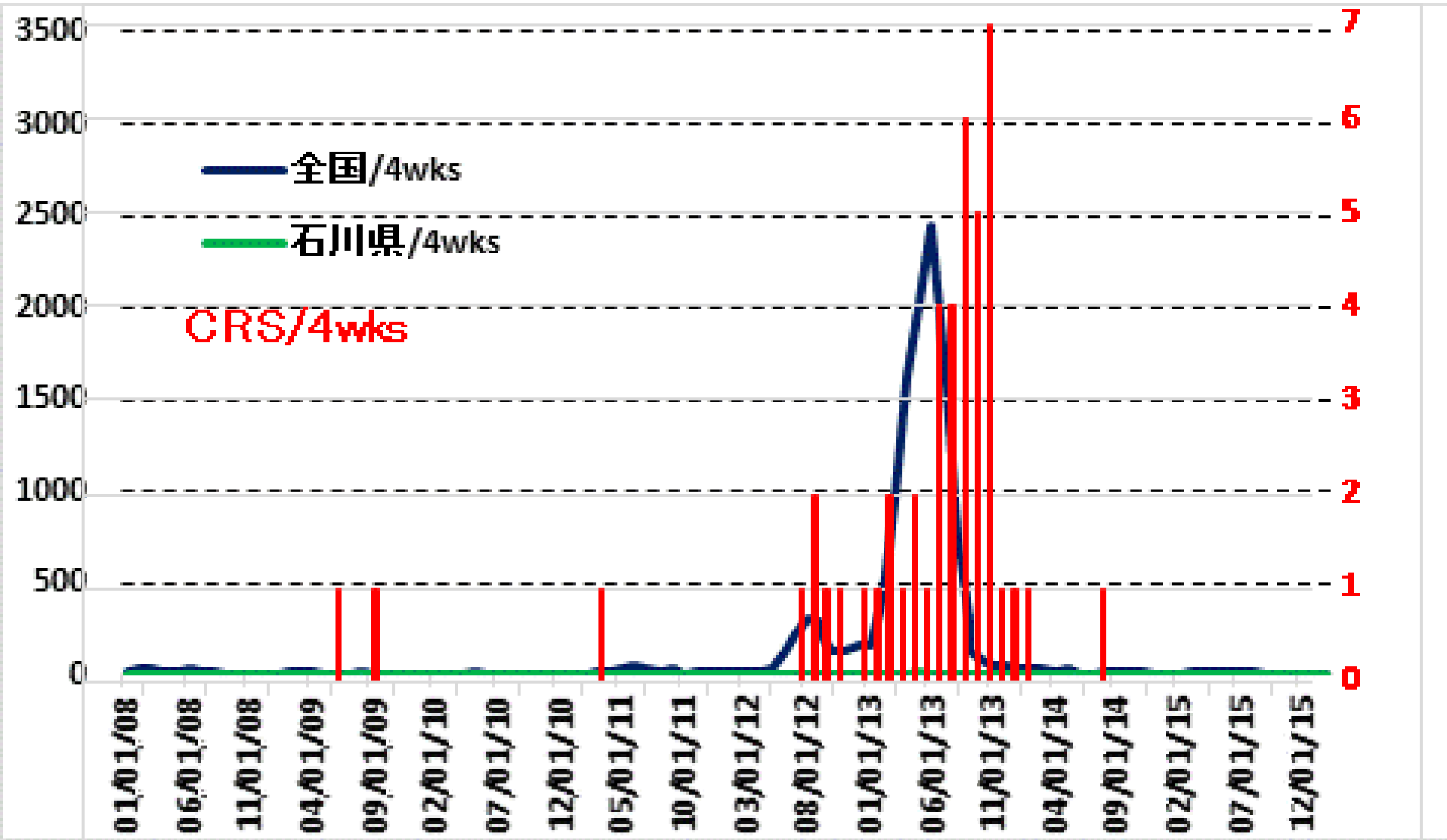
個人防衛：女性は妊娠する前に抗体を高くし感染防御

社会防衛；接種率を上げることにより風疹の流行抑制し、妊婦のウイルス曝露機会を抑制

1993年のギリシアにおける風疹の流行とそれに続く先天性風疹症候群発生数

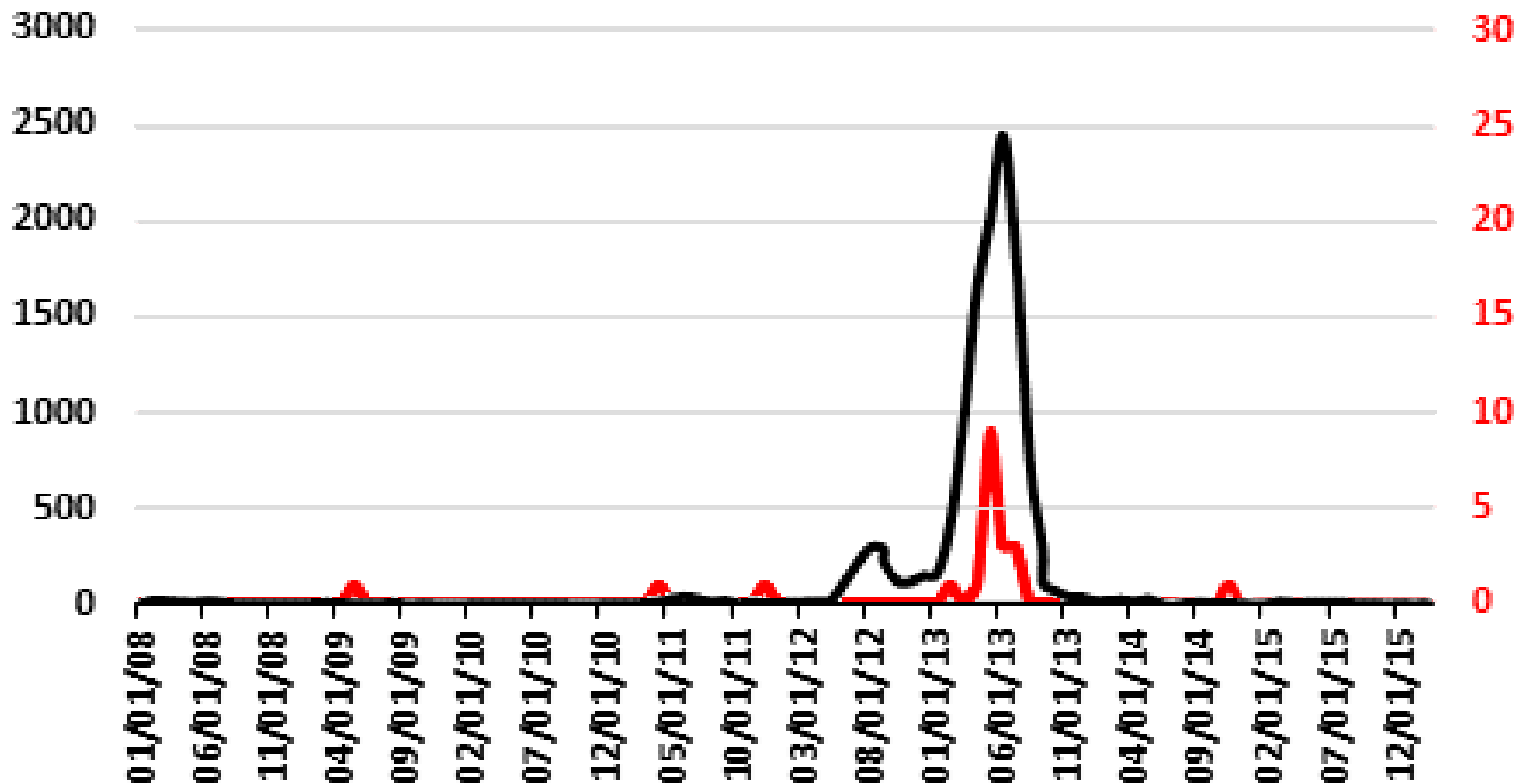


風疹の流行とCRSの報告



風疹報告数

全国/4wks 石川県/4wks



感染症情報センターIDWRの集計

☆風疹ワクチンを受けましょう☆

お母さん自身へのワクチン接種のすすめです。
本日健診～予防接種に来られた児がまだ胎内にいる時に調べた風疹の抗体価が低く、風疹にかかる危険があります。

妊娠20週までに風疹にかかると、胎児に感染し白内障や緑内障などの眼症状、先天性心疾患、難聴などを引き起こします。先天性風疹症候群と呼ばれています。

妊娠が判明するのは早くて2ヶ月目（妊娠4～7週）、通常3ヶ月（8～11週）

なのでそれからの予防では遅く、接種もできません。

次子を妊娠する前にワクチンを接種し、風疹にかからないように予防して下さい。

なお、接種後2ヶ月は妊娠しないように。

わたなべ小児科医院
TEL 076-243-0200



会員各位

石川県産婦人科医学会
会長 浮田俊彦



産後の風疹ワクチン接種勧奨について（お願い）

薫風の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今般、金沢市内の某小児科医から、産褥婦の風疹抗体価が異常に低いという指摘を受けました。以下は、6か月・1歳・2歳児健診時の母親の風疹抗体価の統計です。

2歳児健診 総数 30 : ≤16 3名 (内1名は接種前に妊娠)、≥32 6名、不明 21名
1歳児健診 総数 42 : ≤16 4名 (内1名は分娩後接種)、≥32 13名 (内1名は上の児の時の値)、不明 25名
6か月健診 総数 63 : ≤16 8名 (総て未接種)、≥32 30名、不明 25名
◆135名中判明している15名の低風疹抗体価で産後ワクチンを接種したのは1名だけ。
◆殆どは抗体が低くワクチンの必要性がある事も知らなかった。
(注：不明はデータの記載がないか、伝票が母子手帳に挟んでないもの)

このように、産後に風疹抗体価が非常に低いことがわかります。このような状態で北陸に風疹が流行すれば CRS は必発です。各医療機関におかれましては、抗体価の低い産褥婦に産後早々の接種勧奨をお願いいたします。

平成26年(2014)6月30日

金沢市医師会だより

第498

低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防接種を！ 乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

担当理事 渡部 礼

1 昨年から昨年にかけての風疹の嵐の後、その爪痕として昨年度は32例、本年度は既に8例の先天性風疹症候群(以下CRS)の報告が感染症疫学センターになされている。

CRSを予防するには妊娠する前に風疹に対する抗体を維持して風疹に罹患しないようにすることであり、抗体価の低い人はワクチン接種で抗体価を上昇させることにある。妊娠が判明すると例外を除いて殆どの場合、風疹の抗体価を検査される。抗体価が低い(HI≤16)妊婦は妊娠20週までに風疹に罹ると胎児にCRSを発生するおそれが多いので、人混みを避けるなど風疹に罹患しないよう注意がなされる。風疹に罹患せず抗体価が低いまま分娩したとしても、次子を妊娠する前(今回の産褥早期)にワクチンの接種を勧奨することになっている(厚労省・日本産婦人科医学会)。

金沢市内の某小児科で今年1月から4月に6ヶ月、1歳、2歳の乳幼児個別健診で受診した際、母子手帳で妊娠中の風疹の抗体価を判るものだけ記録し、低かったものにはワクチンの接種の有無を聞いた。135名の健診児の内HIで≥32は49名、≤16は15名、不明は71名であった。HI≤16の15名の内ワクチンを接種しているのは分娩後に1名だけであった。また1名はワクチン未接種のまま次子を身籠っていた。

同様の調査が5月に3ヶ月児の集団健診で市内の一つの福祉健康センターでパイロットスタディ

はいえ、この状態では風疹が入り込むとCRSが発症である。風疹低抗体価の妊産婦が分娩後早々にワクチンの接種勧奨は当然であるが、小児科健診時に母子手帳をチェックして接種の勧奨がCRSの児が生まれないようにしなくてはならない。我々は本土復帰前の沖縄でのCRSの多発を忘れない。

なお、石川県産婦人科医学会にあってはこの報告を報告後、早々に会員への注意を会報等に掲載された。

要望書

2016年6月19日

石川県産婦人科医会会長 荒木克己殿

石川県小児科医会会長 齊藤建二

風疹低抗体価産褥婦に対する産後ワクチン接種勧奨に関する要望

開発当初より風疹ワクチンは先天性風しん症候群(CRS)の発生予防をエンドポイントとして接種体制の変遷があり、2006年から現在の麻疹風疹混合ワクチンでの2回接種になりました。しかし、2004年には10例、2013から15年にかけて45例(内7名死亡)のCRSが報告されました。

2004年8月に「風疹流行および先天性風疹症候群発生抑制に関する緊急提言」が厚生労働省からなされ、その後日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、さらに2013年からの流行で再び厚労省から、低風疹抗体価の妊産婦に対する産褥期早期風疹ワクチンの接種も勧奨しております。

妊婦の風疹低抗体価は20%超と報告されおり、石川県でも2015年度に小児科医会会員の母子手帳等での外来調査では、25%超(52/186)が接種勧奨の $HI \leq 16$ であり、しかもその内産褥早期に産院で13%(7/52)しかワクチン接種されていないという発表がありました(2014年には年齢対象、調査期間は違うも $HI \leq 16$:22%、接種率20%)。

妊娠適齢期の年齢でしかもこの後次子を授かりやすい境遇にある風疹低抗体価の産褥婦であります。また石川県で風疹の流行が少なかったとは言え、全国で大流行しマスコミを騒がせた直後での値であります。

1965年の沖縄の流行でCRS408人を我々は経験しての今回のCRS報告であります。風疹は約5年毎に流行しております。風疹低抗体価の産褥婦には次子のCRS発生予防の為にまた社会免疫の為に、産後早期に少しでも多くの風疹予防接種の接種を小児科医会として切望しているものであり、貴会会員への厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産婦人科学会からの勧告・ガイドライン等に沿っての接種勧奨及び実施の周知を強く要望するものである。

風疹ワクチン接種時の注意事項と副反応

- あらかじめ約 1 か月間避妊した後接種すること
- 接種後は約 2 か月間避妊すること
- 副反応の説明

発熱、局所反応、発疹、その他のワクチンと同じ

急性血小板減少性紫斑病：1/100万接種

リンパ節腫脹、関節痛：一過性

結語

風疹低抗体価の産褥婦は産後早々に接種を！

母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！